第４次「中川村男女共同参画計画」延長のための意識調査アンケート集計・分析結果

令和５年 12 月

中川村

【調査の目的】

本調査は、第４次中川村男女共同計画が令和４年度で終了することから、計画の一部を見直しの基礎資料にするとともに、村民の男女共同参画への意識、事態の把握を目的として調査した。

【調査対象】

令和４年４月１日現在中川村に居住する 18 歳から 80 歳代から無作為に抽出した男女各 500 人(計 1,000 人)。

【調査方法】

郵送配布―郵送回収及びインターネットによる調査

【調査期間】

令和５年２月１日(水)～令和５年２月 28 日(火)

【回収数及び回収率】

(1)　対 象 者 数　1,000 人　(女性：500 人　男性：500 人)
(2)　有効回収数　　408 人　(女性：216 人　男性：188 人　回答しない：４人)
(3)　有効回収率　　40.8%　(女性：43.2%　男性：37.6%)
(4)　回 答 方 法　紙アンケート：330(約 81%)　インターネット：78(約 19%)

【調査結果を見る上での注意事項】

・本文、表、グラフなどに使われる「ｎ」は、各設問に対する回答者数である。
・百分率(%)の計算は、少数第２位を四捨五入し、少数第１位まで表示した。したがって、単数回答(１つだけ選ぶ問)においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて 100%にならない場合がある。
・複数回答(２つ以上選んでよい問)においては、%の合計が 100%を超える場合がある。
・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。

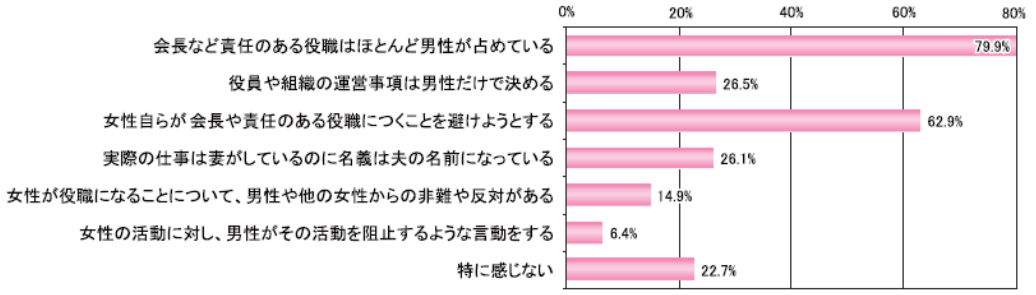
「中川村男女共同参画計画ともに歩む21パート４」について

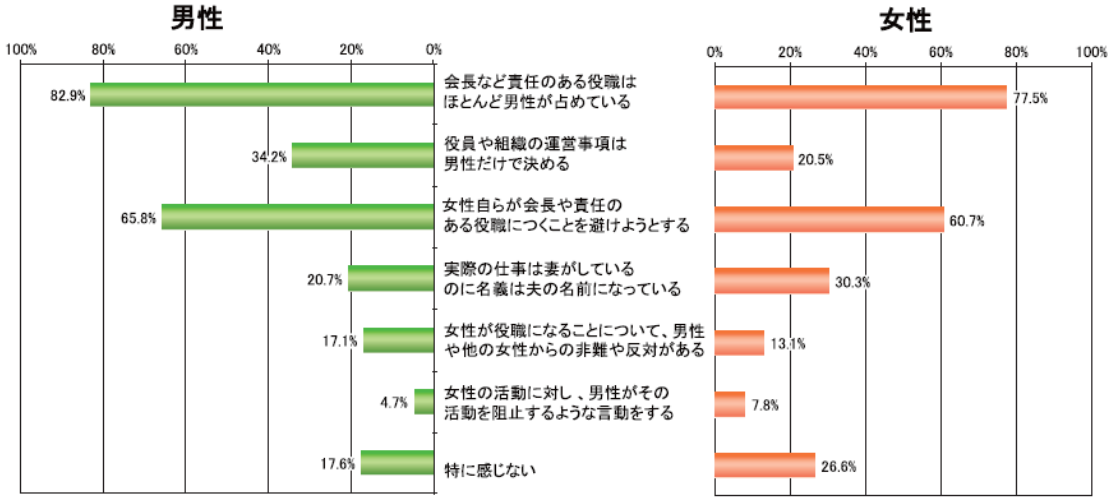
重点目標①男女共同参画の意識づくり

○具体的目標１　男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直しと意識づくりの促進

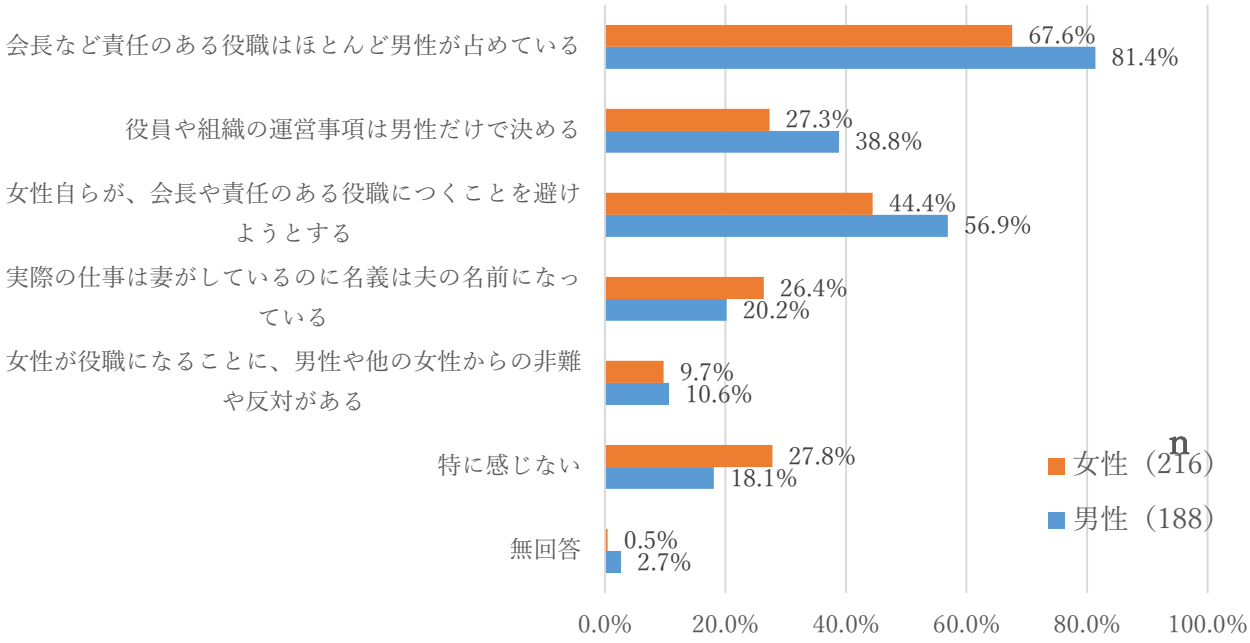
・計画 24 ページと結果 問 24

地区･ＰＴＡ等の地域活動や作業において次のようなことがありますか。（複数回答、３つまで）





「中川村男女共同参画計画　ともに歩む21　パート４」策定時アンケート調査　平成29年９月



考察１

・「女性自らが、会長や責任のある役職につくことを避けようとする」の項目が、計画と比べて男性は 8.9%減、女性は 16.3%減と男女とも減少傾向にあり、女性のなかでも役職に就こうと意欲を持っている人が少しずつ増えてきているといえるのではないか。

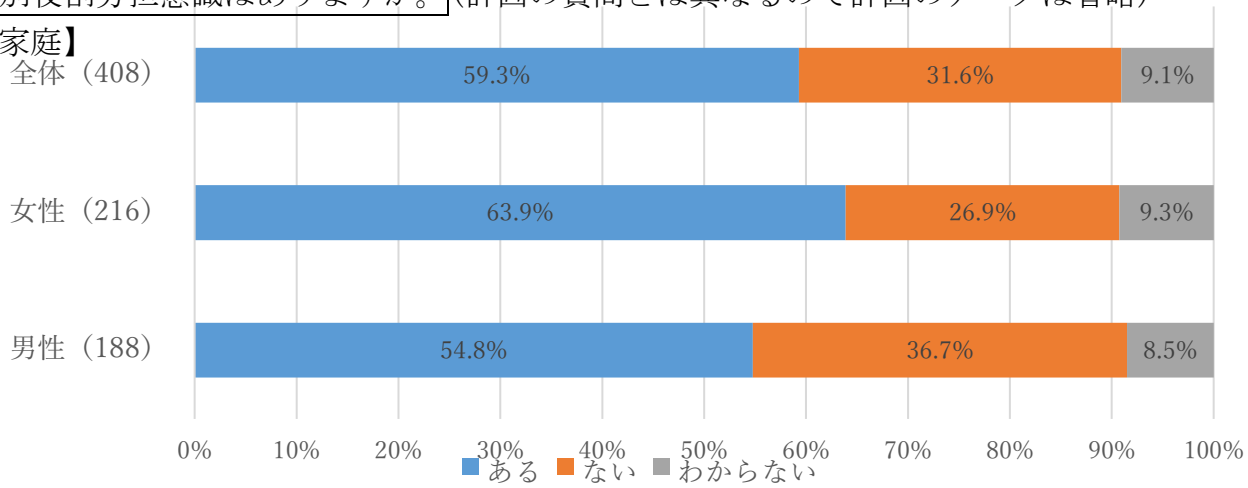
・「会長など責任のある役職はほとんど男性が占めている」の項目では、計画と比べて男性の回答は 1.5%減とほとんど変わりないが、女性の回答については 9.9%減となっており、責任のある役職をほとんど男性が占めているなかに、少しずつ女性も参画しており、またその変化を女性は感じてきていると考えられる。

・女性の社会参加や参画目線での考察が多くなりがちだが、「責任ある仕事や役職は男性が多い」という結果に不平等さを感じている男性もいるのではないか。

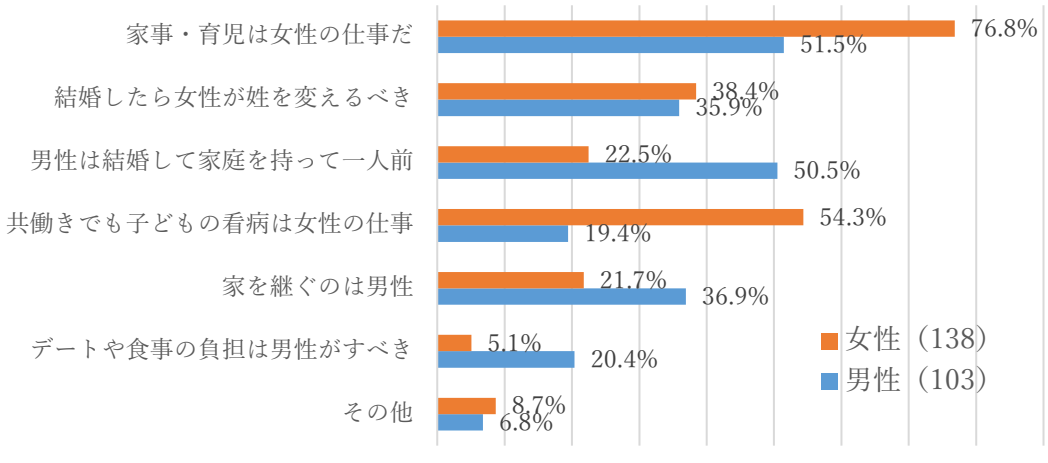
・(計画 25 ページと)結果 問８.10.12

性別役割分担意識はありますか。(計画の質問とは異なるので計画のデータは省略)

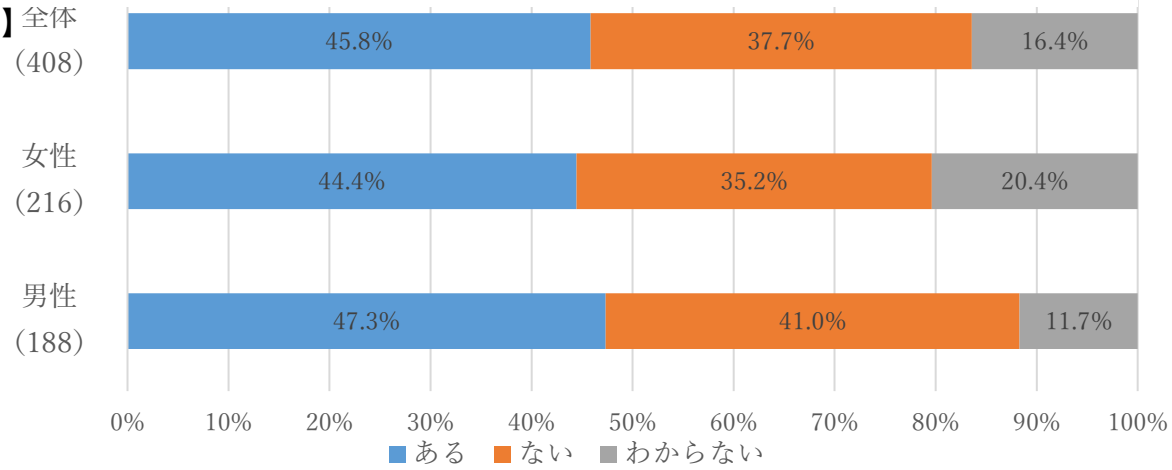
【家庭】



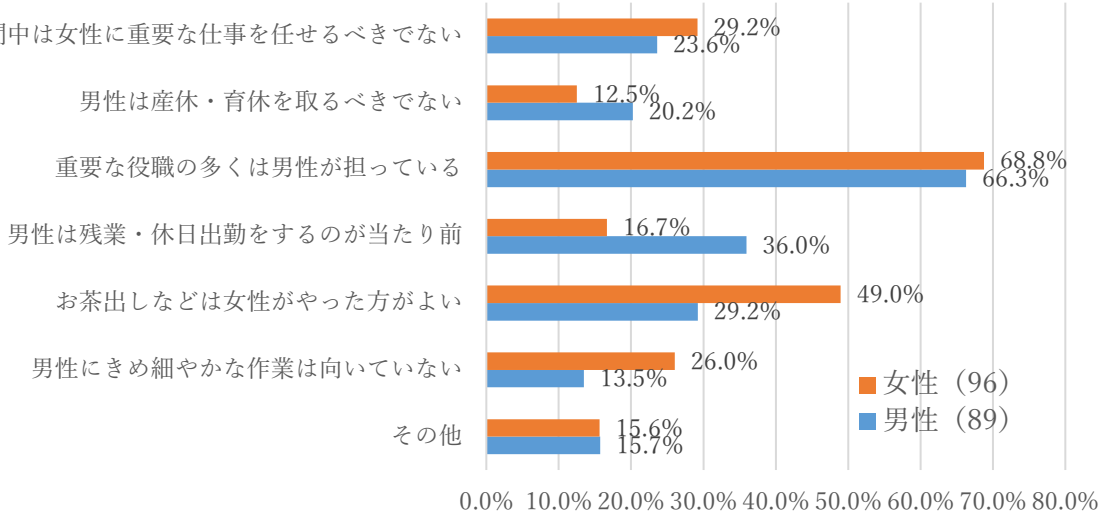
詳細



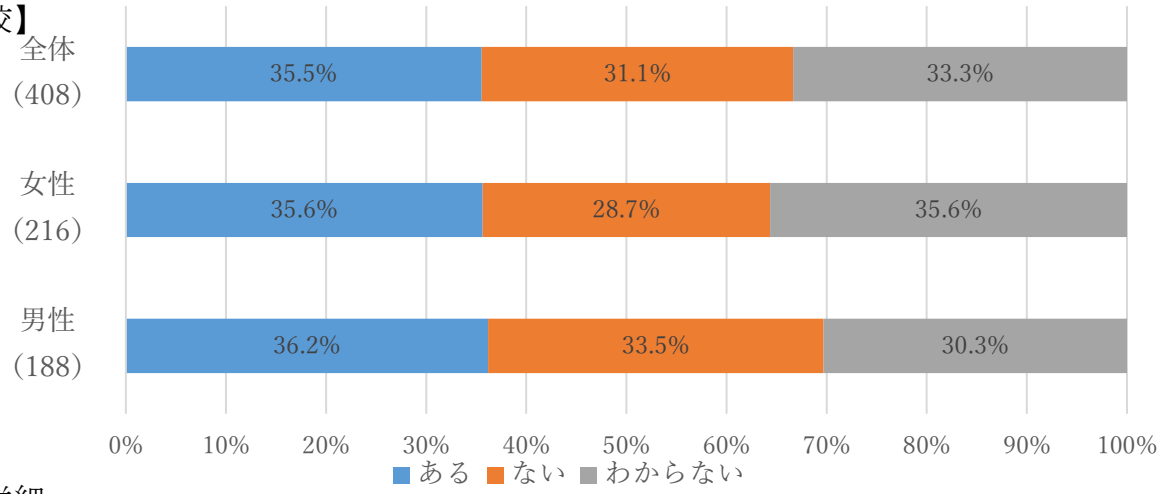
【職場】



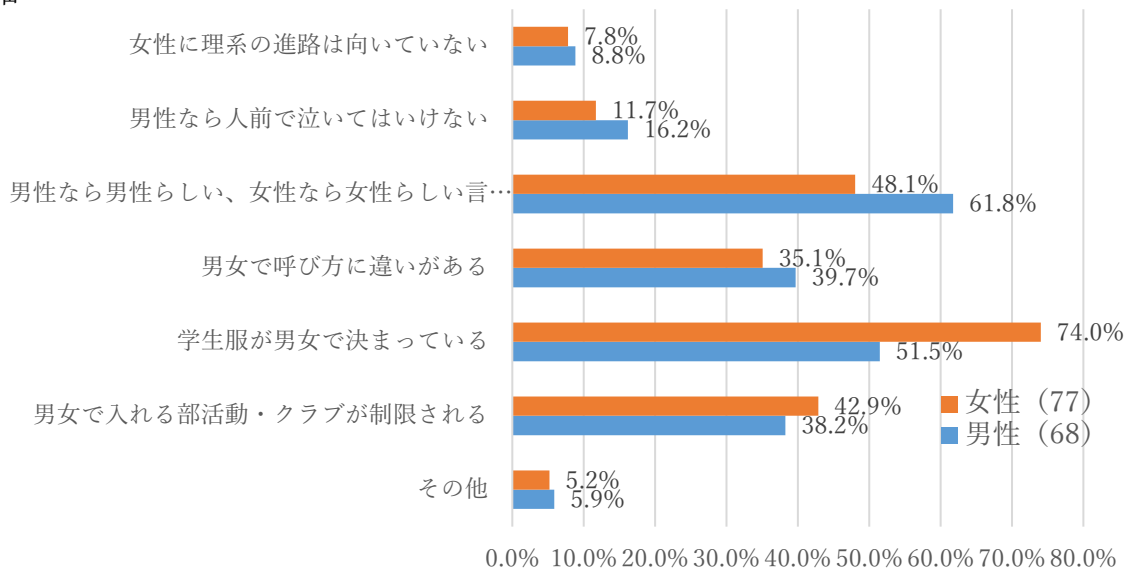
詳細



【学校】



詳細



考察２

・３つの異なる環境下での性別役割分担意識は、家庭内で分担意識を感じる人が多いという結果となった。男女別でも、家庭内で分担意識を感じるという女性の回答率が 63.9%と多く、男性の回答率についても 54.8%と多いため、男女ともに家庭内での性別役割分担意識とその慣行は根強く残っているとも読み取れるのではないか。

・家庭のうち、詳細な質問のなかでは「共働きでも子どもの看病は女性の仕事」の項目で男性は 19.4%、女性は 54.3%と 34.9%の差がある。この男女の差から見えてくるのは、皆で担わねばならないということは理解できているものの、お互いに押しつけられた性別役割分担の意識を変えることができないのではないか。

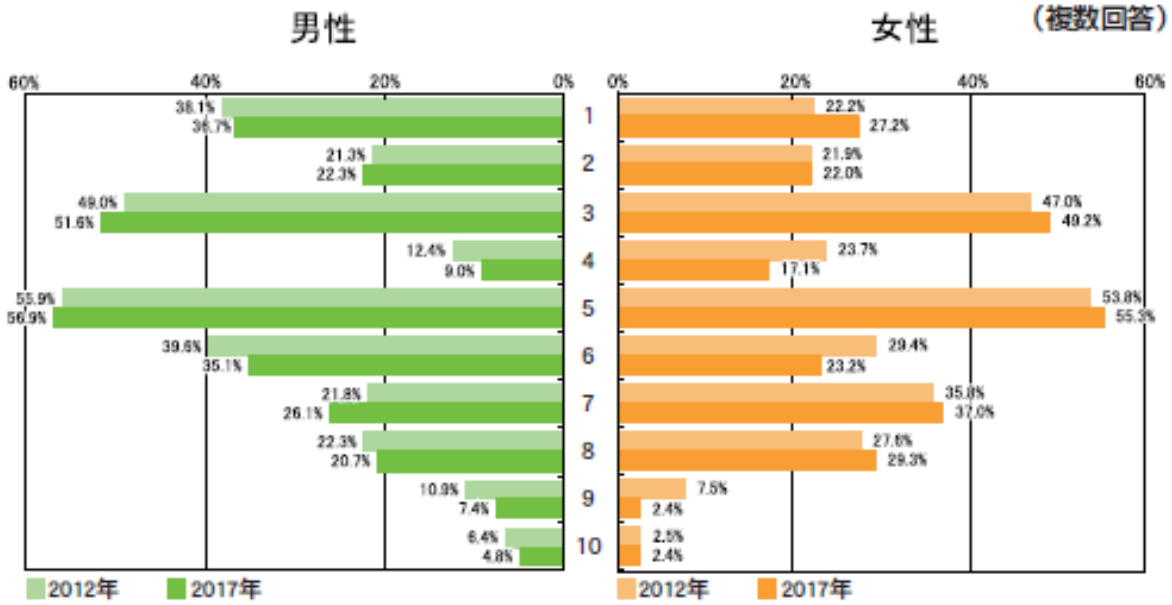
・職場のうち、詳細な質問のなかでは、「重要な役職の多くは男性が担っている」の項目で、男性は 66.3%、女性は 68.8%と男女ともに高い回答率だった。女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）等の男女平等に関する法律の整備が進むなかでも、未だ女性が活躍できる職場環境整備は不十分といえるのではないか。

・学校のうち、詳細な質問のなかでは「学生服が男女で決まっている」の項目で、男性は 51.5%に対し、女性は 74%と 22.5%の差が出ている。学生服がズボンかスカートかという見た目でわかりやすい男女の区別を感じる人が女性の方が多いことがわかる。

・父性と母性が本能としてあるため、当事者同士で納得しているのであれば男性と女性の役割はあって良いと思うが、性別役割分担意識に不満を持っている人の男女不平等感は課題となるので一概にはいえない部分がある。

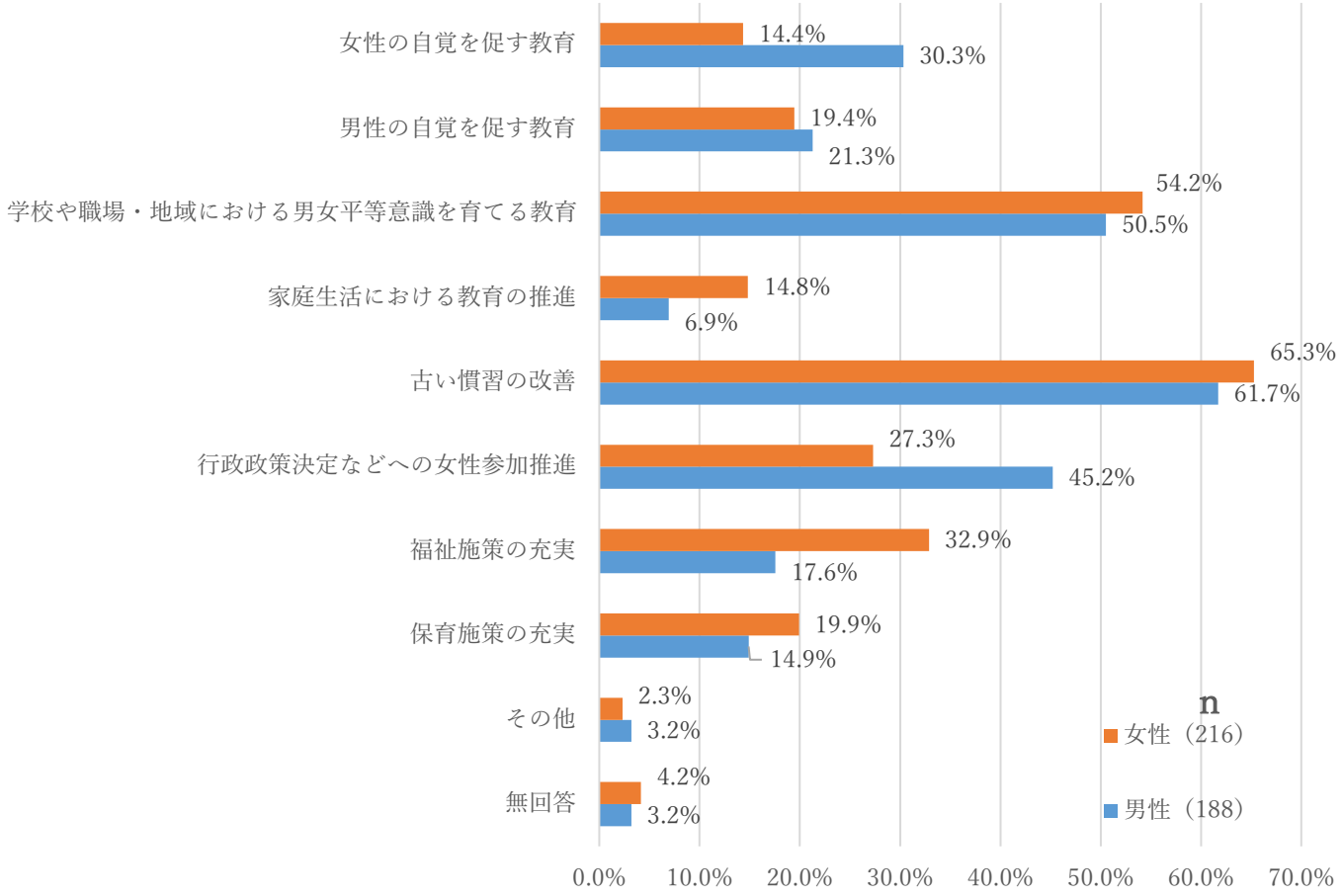
・計画 26 ページと結果 問 26

男女共同参画社会の実現に向けて行政が力を入れるべきだと思うことは何ですか。



1．女性の自覚を促す教育
2．男性の自覚を促す教育
3．学校や職場・地域における男女平等意識を育てる教育
4．家庭生活における教育の推進
5．古い慣習の改善
6．行政政策決定などへの女性参加推進
7．福祉施策の充実
8．保育施策の充実
9．男女共同参画推進センター設立
10．その他

「中川村男女共同参画計画　ともに歩む21　パート４」策定時アンケート調査　平成29年９月



考察３

・「古い慣習の改善」の項目について、男性は 61.7%、女性は 65.3%と計画と比べるとそれぞれ 4.8%、10%増加しており、前回の調査よりも古い慣習に対して疑問を持つ人が増えているのではないか。

・「学校や職場・地域における男女平等意識を育てる教育」の項目については、高い回答率で多くの人に関心を持たれているといえるのではないか。

・「女性の自覚を促す教育」の項目について、男性は 30.3%、女性は 14.4%と計画と比べるとそれぞれ 6.4%減、12.8%減と男女とも減少した。女性の減少幅が大きいことについて、既に自覚はされてきているのでより具体的な男女共同参画社会の実現に向けた対策が必要であるとの回答に流れたのではないか。

・「男性の自覚を促す教育」の項目については、男性は 21.3%、女性は 19.4%と計画に比べ、ほとんど変わらなかった。「女性の自覚を促す教育」と比べると減少の幅は大きくはないが、具体的な男女共同参画社会の実現に向けた他の対策に回答に流れたと考えられる。

○具体的目標２　男女共同参画についての教育・学習の推進

・計画 29 ページと 30 ページについては今回のデータと比較できないため省略

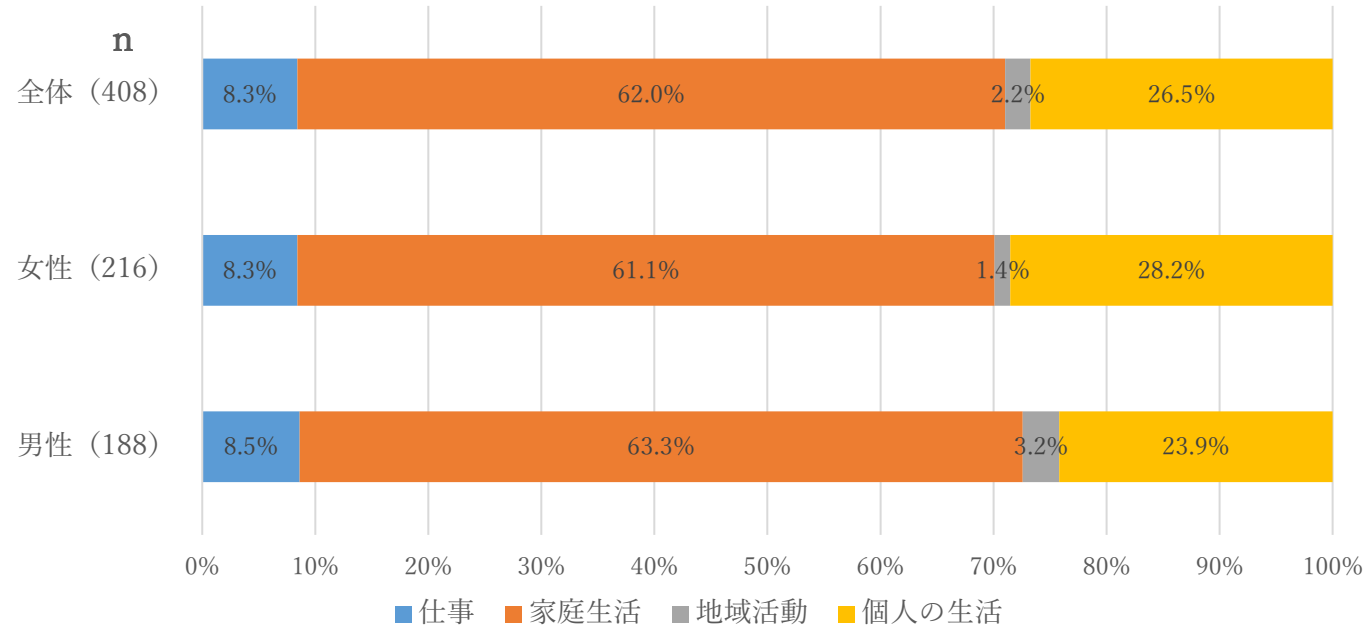
・(計画 30 ページと)結果 問 22-1 問 22-2

「仕事」「家庭生活」「地域活動」「個人の生活」の中で優先度が最も高いものは。(理想)

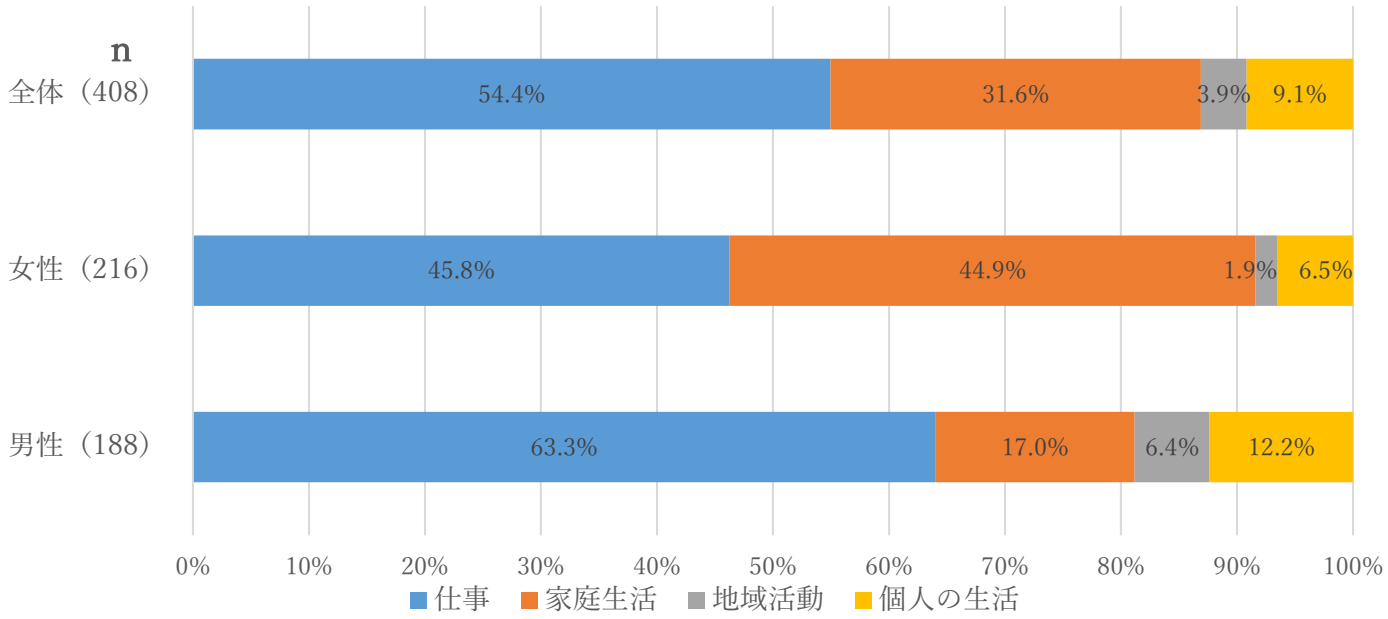
「仕事」「家庭生活」「地域活動」「個人の生活」の中で優先度が最も高いものは。(現実)

(計画の質問とは異なるので計画のデータは省略)

【理想】



【現実】



考察４

・全体をとおして【理想】の回答では、家庭生活を第一に優先したいと考える人が多いものの、【現実】の回答では仕事が優先になってしまうという人が多かった。【現実】の質問の回答で男女を比較すると、女性は仕事と家庭生活の割合がほぼ半々なのに対し、男性は家庭より仕事優先の割合が大きく、現実的にはまだまだ家庭生活を第一優先にすることは厳しいことが現れているのではないか。

・【理想】では個人の生活を優先させたいと考える人も多いが、【現実】ではなかなかそうはいかない状況であり、比較的女性よりも男性の方が個人の生活を優先したい傾向にある。

・地域活動については男女ともに理想に対し、現実の方が比率が多く、特に男性の方が増加の幅が大きいことから、重要な役員や組織の運営事項を決める場に行くような機会が比較的多くあることがいえるのではないか。

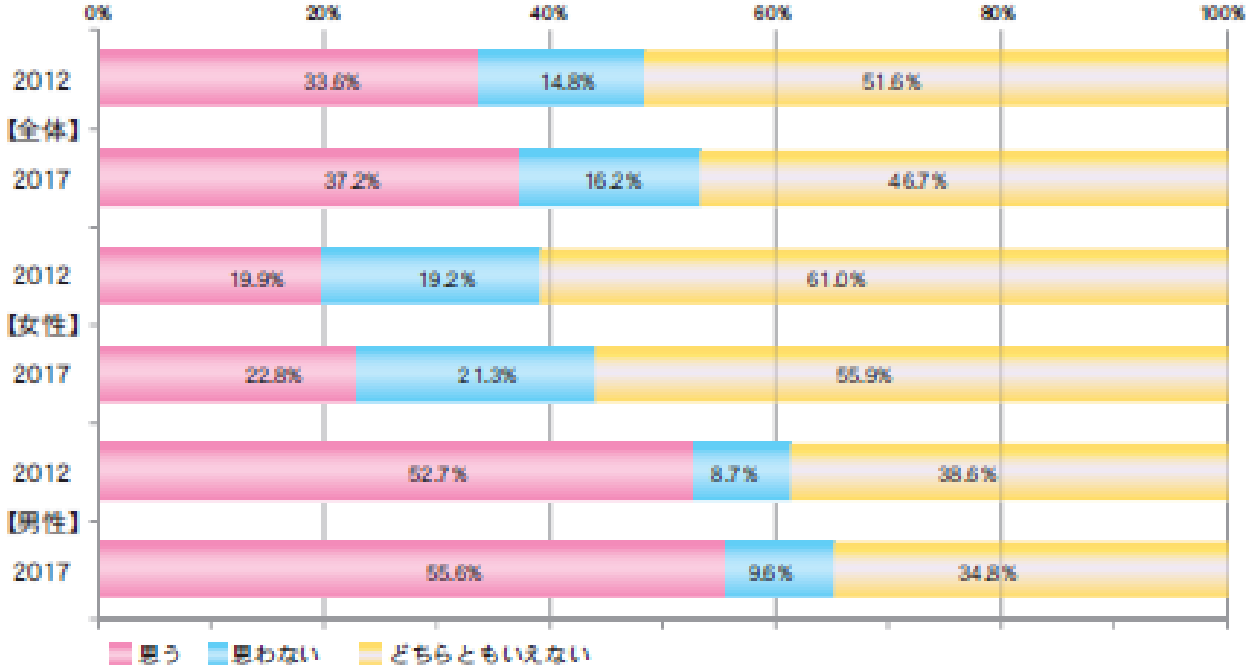
・いずれにしても、理想と現実は大きくかけ離れており、現実は理想に追いついていけない状況である。

重点目標②男女が共に参画できる社会づくり

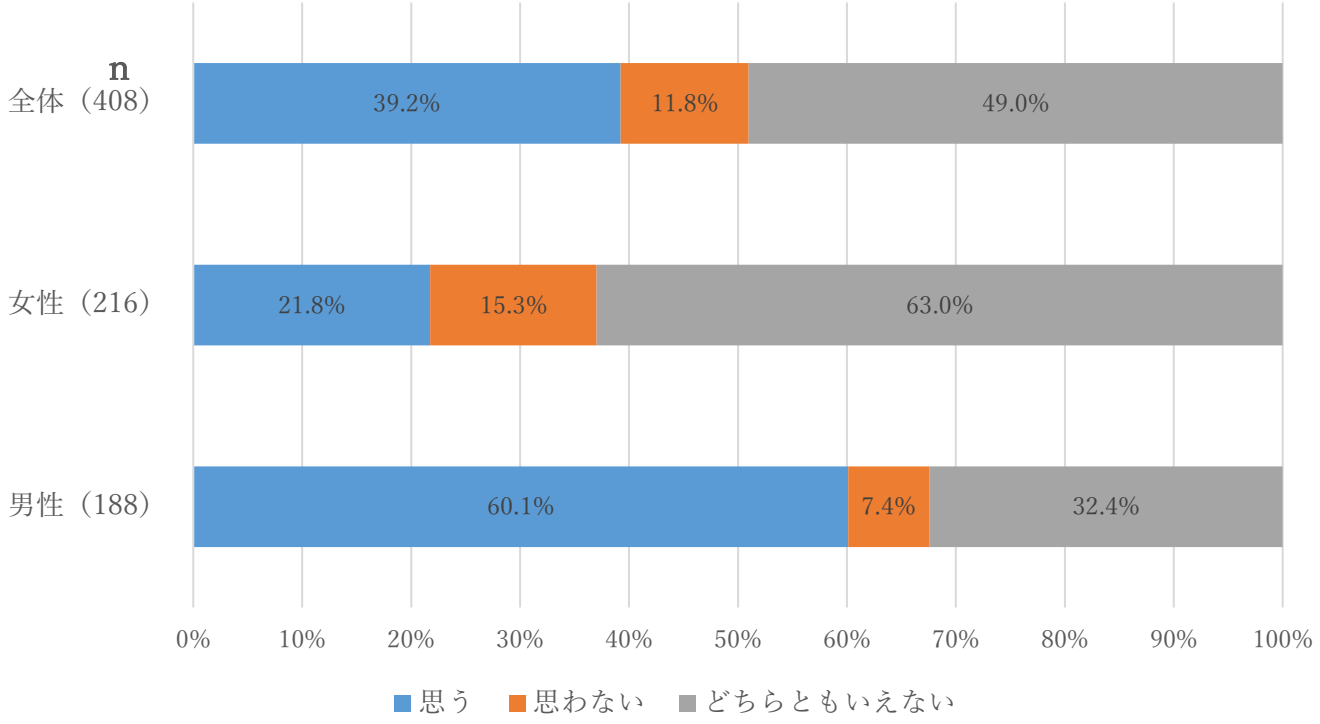
○具体的目標１　地域社会における女性の参画の拡大

・計画 35 ページと結果 問 23

あなたは地区役員や PTA などの会長に女性が進出する必要があると思いますか。



参考：各年男女共同参画社会づくりの推進状況（長野県人権・男女共同参画課）



考察５

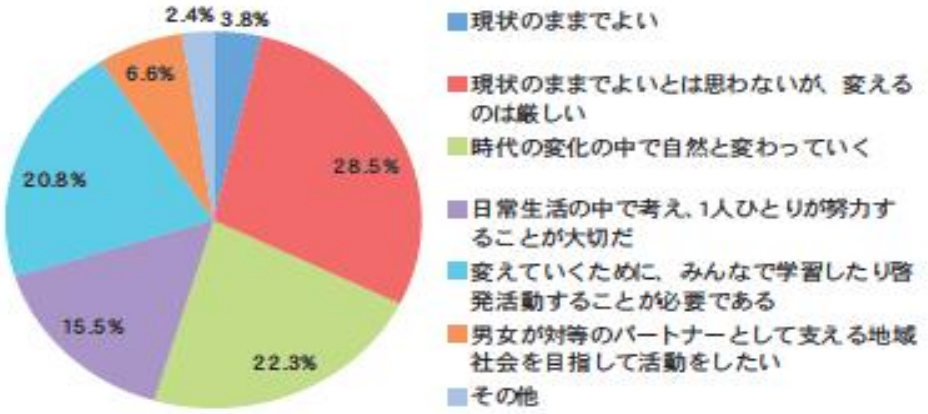
・計画と今回のアンケート結果を比較すると、「思う」と回答した人は全体では 2%増、女性は 1%増、男性は 4.4%増とそこまで大きな変化はなかった。しかし、前回の調査の結果と比較すると 32.8%から 38.3%へと差が拡大している。男性はもっと女性の進出を望んでいることに対して、女性はどちらともいえないという回答が大半を占めており、その背景には、家事や育児、介護に対する負担の割合が大きいことのほかに、社会条件の不備や古い習慣等の固定的性別分担意識やしきたり等の固定的な考え方が残っていることがあるのではないか。

・「思わない」と回答した女性が計画と今回のアンケート結果を比べて変化が大きく 6%減っている。女性が地域社会に進出する必要がないと考える人が減ったことは、地域社会における女性の参画の拡大へつながっていく可能性があると思うが、「どちらとも言えない」と回答した人は 7.1%増加しているため、女性のやらなくてよいのなら今のままでいいという意識をどう変えていくかが課題であると思う。

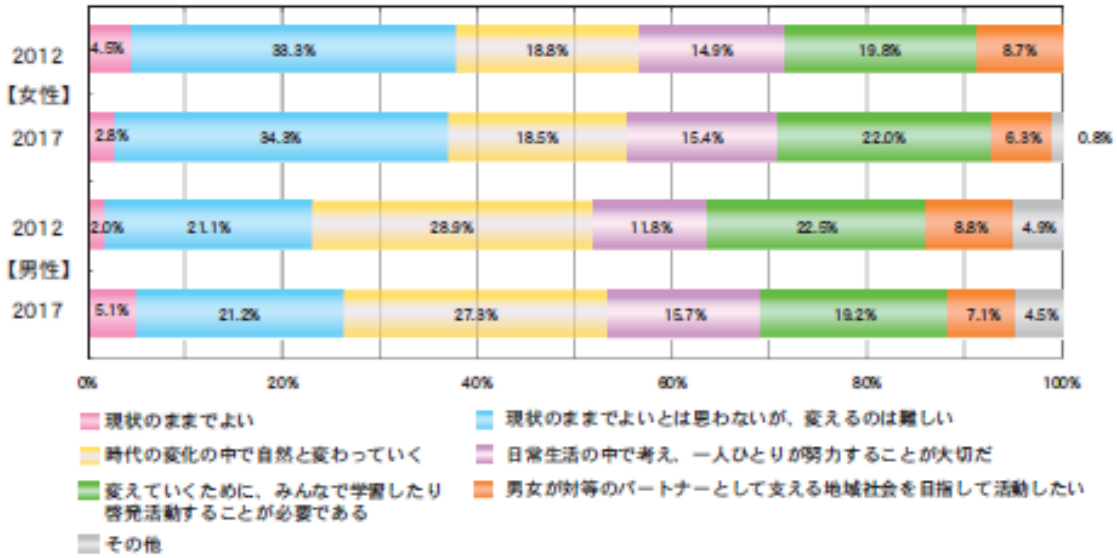
○具体的目標２　政策・方針決定過程への女性の参画の拡大

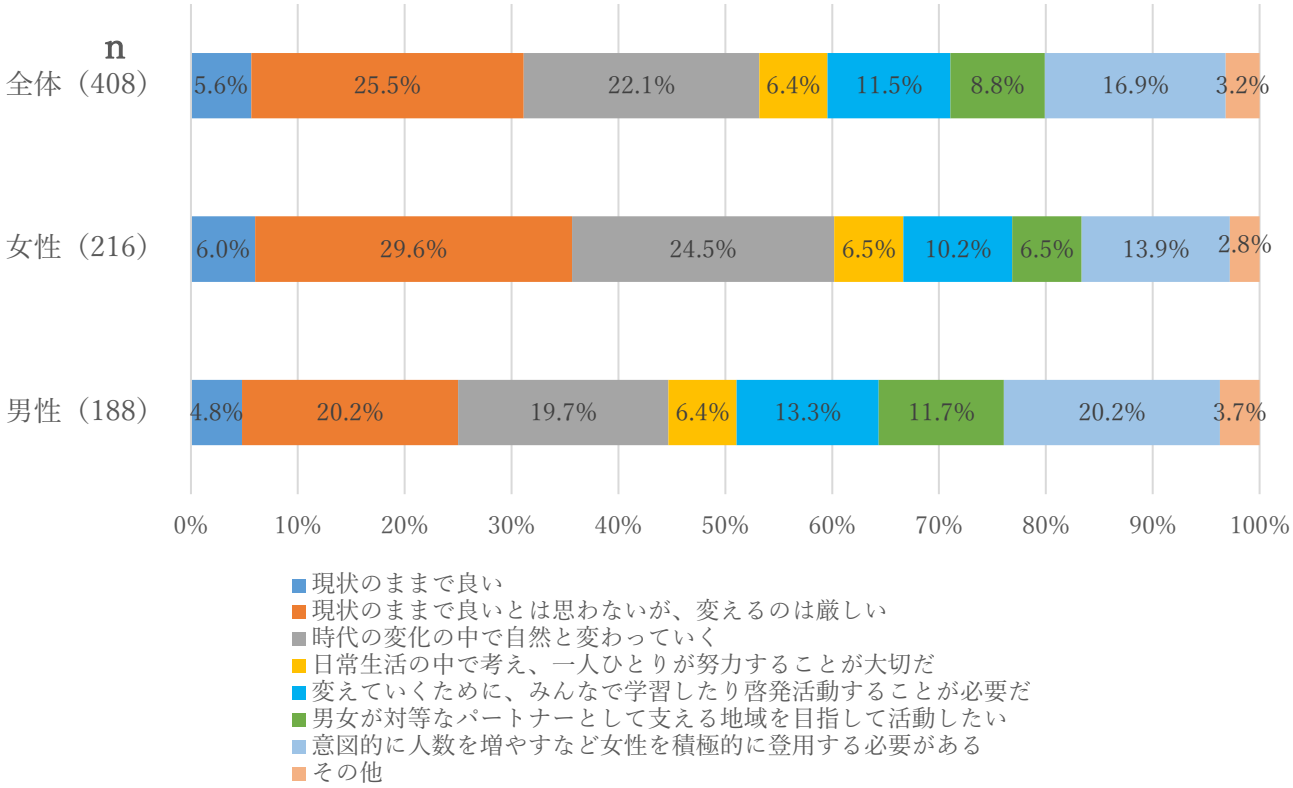
・計画 38 ページと結果 問 25

地域行政や方針決定の場に女性の参画が少ない現状についてどのように考えますか。



「中川村男女共同参画計画　ともに歩む21　パート４」策定時アンケート調査　平成29年９月





考察６

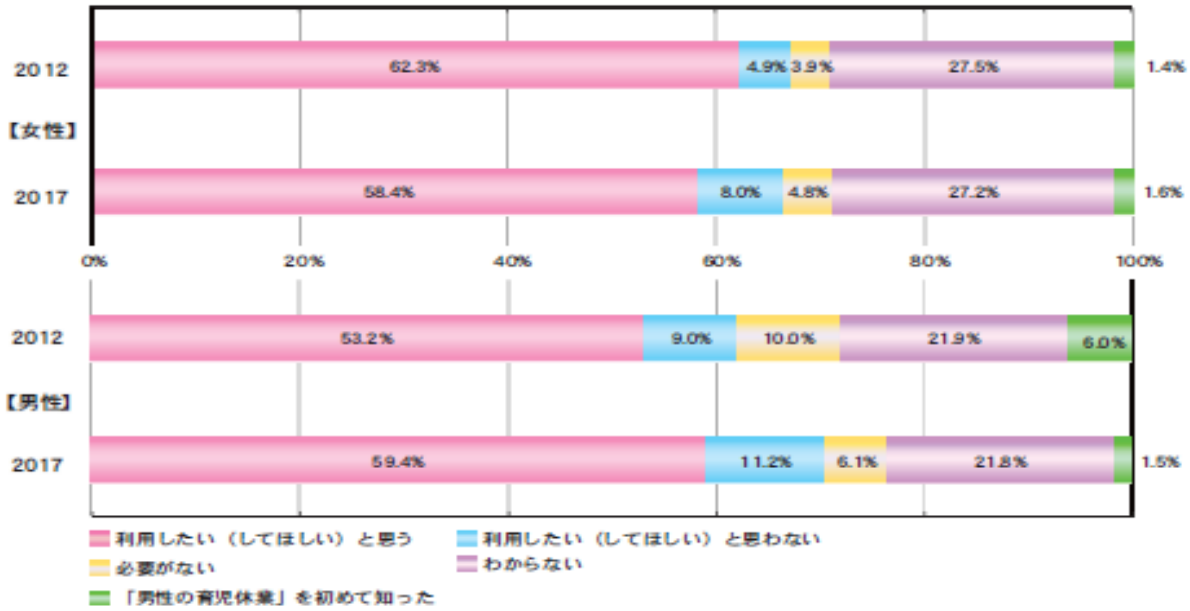
- 「現状のままでよいとは思わないが、変えるのは厳しい」の項目では、計画と比べて全体の回答率は減少している。男女別に見ると、女性の方が現状を変えていくことは厳しいと思う人が多くなっているが、少しずつ割合は減っているため、現状は変えられないという考えから変えていけるようなほかの選択肢に流れているのではないか。
- 「日常生活の中で考え、一人ひとりが努力することが大切だ」の項目は計画と比べて全体、男女全てで減少している。日常生活の中で考えるといっても無意識のうちに性別役割分担の意識を持っていたり、一人で努力をしても取り巻く環境や周囲からの配慮がなくては変えていくことは難しいと感じているのではないか。
- 「時代の変化の中で自然と変わっていく」の項目で、女性の回答が 6%増えている。徐々に変化を感じてきているのかもしれない。
- 「意図的に人数を増やすなど女性を積極的に登用する必要がある」の項目を追加すると、この項目に魅力を感じる人が多く、回答率が高い結果となった。女性の参画が少ない現状について、意図的に女性の人数を増やしていくことで、地区や PTA の役員等をやらなくてよいのなら今のままでいいという考え方の女性の意識改革にもつながるのではないか。ただ、性別で役員を増やすことが、男女共同参画といえるのかどうかは考える必要があるが、積極的な女性登用の促進を図っていくことは重要である。

重点目標③あらゆる場面で男女がともに活躍できる環境づくり

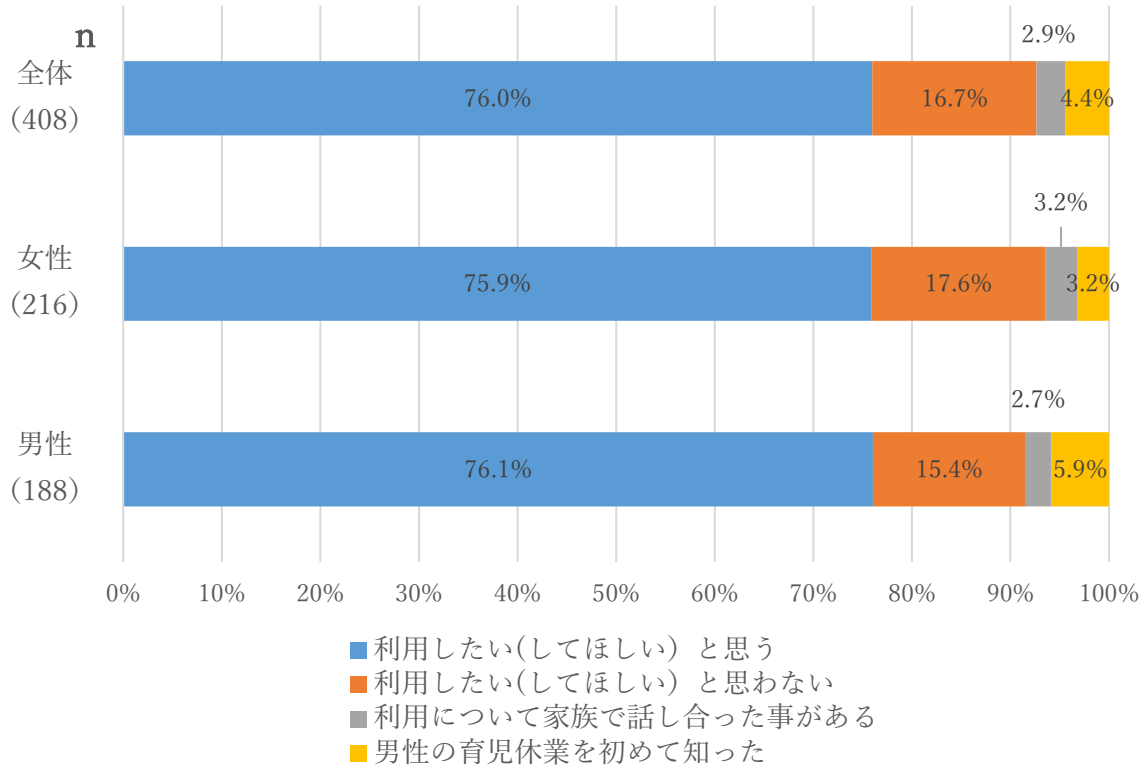
○具体的目標１　男女が仕事、家庭、地域活動において両立できる環境づくり

・計画 43 ページと結果 問 16

男性の育児休業についてどう思いますか。



「中川村男女共同参画計画　ともに歩む21　パート４」策定時アンケート調査　平成29年９月



考察１

・計画と今回のアンケート結果を比較すると、「利用したい（してほしい）と思う」の項目について、男女ともにそれぞれ 16.7%、17.5%増加している。今回のアンケートでは、計画の質問項目の「必要がない」「わからない」という選択肢を無くし、その分の回答が分散されたとはいえ、男性が育児休業を利用することに対して肯定的にとらえる人が増えているといえるのではないか。

・一方で、「利用したい（してほしい）と思わない」の項目についても、男女ともにそれぞれ 4.2%、9.6%増加している。

女性の回答からは、男性が育児休業を利用することで負担軽減や早期の復職が期待できるものの、現実では女性の休業期間と比べて短期間であることや、せっかく育児休業を利用しているのに家事育児を怠り、かえって女性の負担になりかねないなどという意見を日常生活の中で目にする機会や耳にする機会もあり、多少なりとも抵抗感のある女性もいると考えられる。

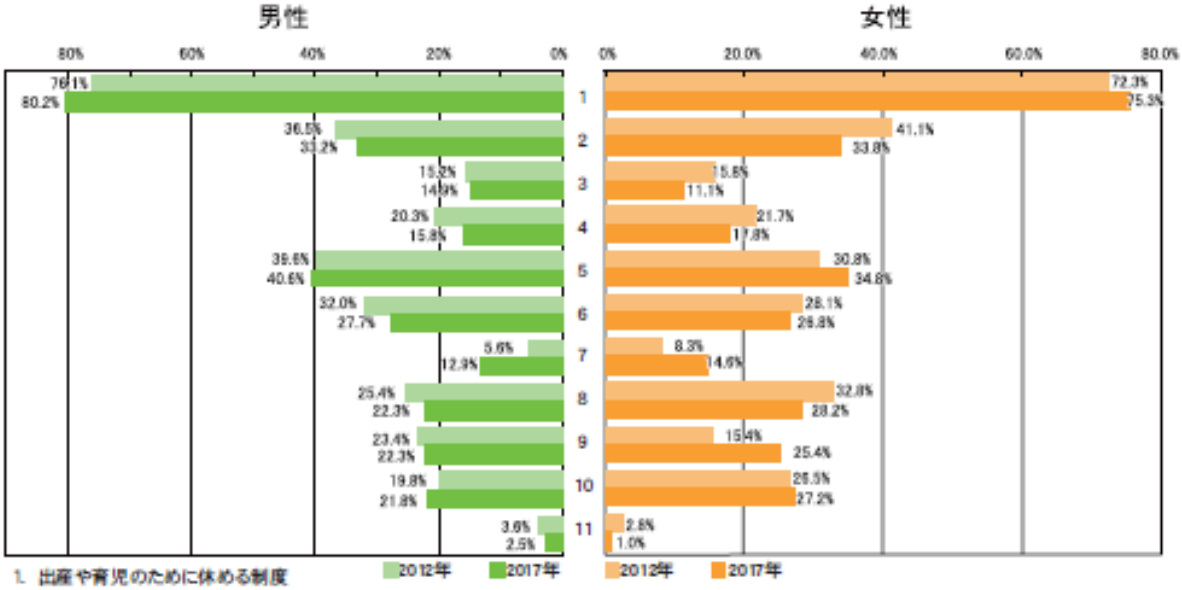
また、育児休業を利用することによる収入面での心配や職場の利用しづらい雰囲気、出世への影響を心配するといった世論の影響から育児休業の利用に意欲的でない男性や女性も一定数いると考えられる。

・男性の育児休業に対して理想と現実のギャップがあるなか、育休を取得して頑張っている男性もいる。会社にとっての負担や男性にとっての収入の減少、育児休業を取得することへの抵抗感などマイナスな面だけでなく、仕事では得られない充実感や子どもが成長していく様子を近くで見ることができる、パートナーと一緒に育児を共有することで絆が深まるなどプラスの面にも目を向け、男性の育休がさらに広がるためにも育児を分かち合える社会・環境作りが必要である。

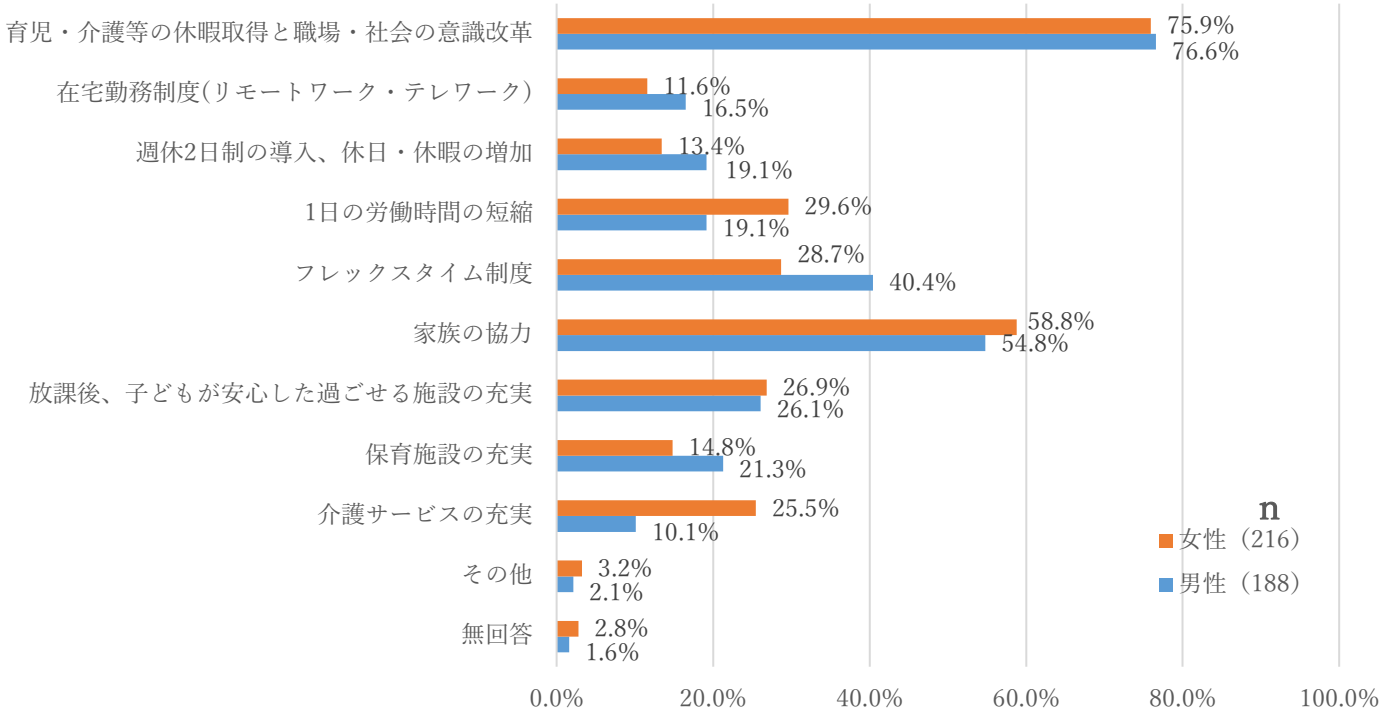
・計画 45 ページと結果 問 20

女性が家庭と仕事を両立させて働き続けるためにはどんな労働条件や制度が必要だと思いますか。

（どちらか一方のみの項目もあるため、共通している項目のみで比較）



「中川村男女共同参画計画　ともに歩む21　パート４」策定時アンケート調査　平成29年９月



考察２

・計画の「出産や育児のために休める制度」と結果の「育児・介護等の休暇取得と職場・社会の意識改革」の項目が最も高い回答率だった。今回のアンケートでは、計画と比べて「介護」「職場・社会の意識改革」というキーワードが追加されたこともあり、男女ともに最も高い回答率で、男女で回答の差もほとんど見られなかった。このことから、男女共通して「育児・介護等の休暇取得と職場・社会の意識改革」を強く望んでいることが表れている。

・「フレックスタイム制度」の項目では、特に男性の回答率が伸びた。計画と比べて今回のアンケートでは 12.7%増加しており、なぜ男性の方が女性にフレックスタイム制度が必要だと思うのか理由を考えてみると、朝や夕方の子どもの送り迎えや子どもに何かあった場合に対応するのは女性の場合が多く、介護等も含めて日中に起きた有事の際に柔軟に動けるようにするためではないかと考えられる。

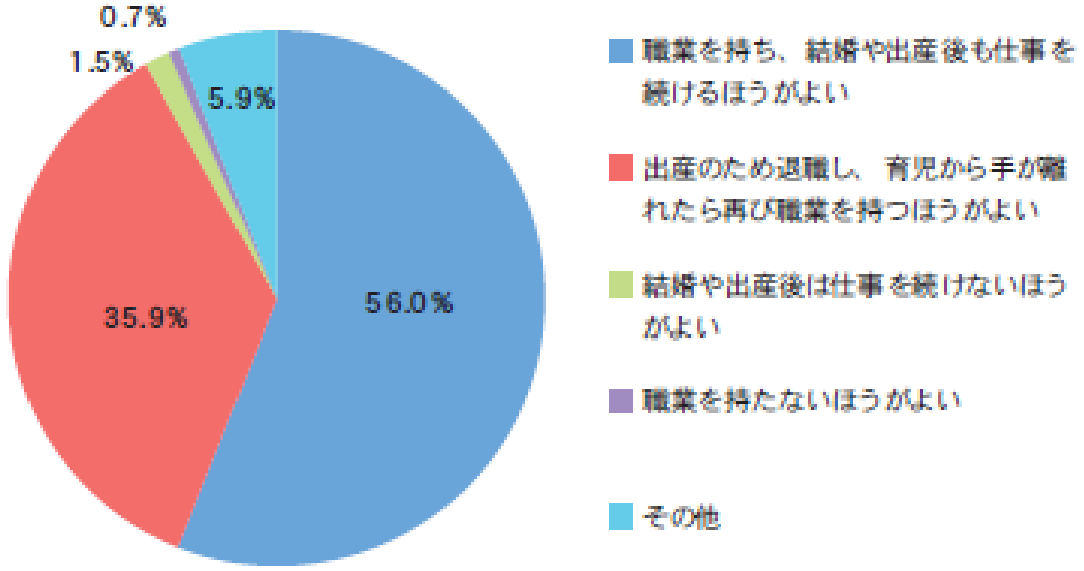
・出産しても、子育てや介護をしながらも働き続けたい人が増えている今、離職せずに働き続けることのできる様々な環境整備が必要である。

○具体的目標２　農林業・商工業等の自営業における男女共同参画の環境づくり

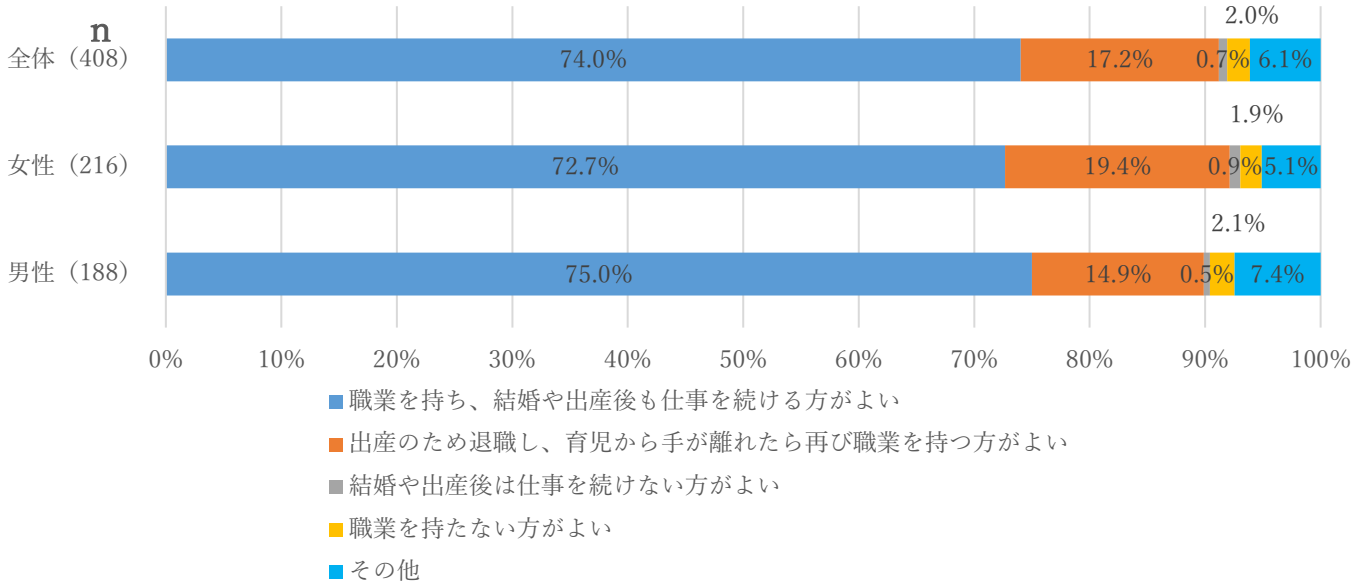
・計画 49 ページと結果 問 19

農業や自営業の職業を女性が持ち続けることについての考えは？

（計画では全体の回答のみの記載のため、男女別での考察はなし）



「中川村男女共同参画計画　ともに歩む21　パート４」策定時アンケート調査　平成29年９月



考察３

・計画と今回のアンケート結果を比べると、「職業を持ち、結婚や出産後も仕事を続けるほうがよい」の回答率が 18%増加している。その分「出産のため退職し、育児から手が離れたら再び職業を持つほうがよい」の回答率が 18.7%減少した。農業を例とすると１年を通して作業工程が多いため、人手が一人減るだけでも業務が間に合わない等の不都合が生じてくることも要因の１つであるのではないだろうか。

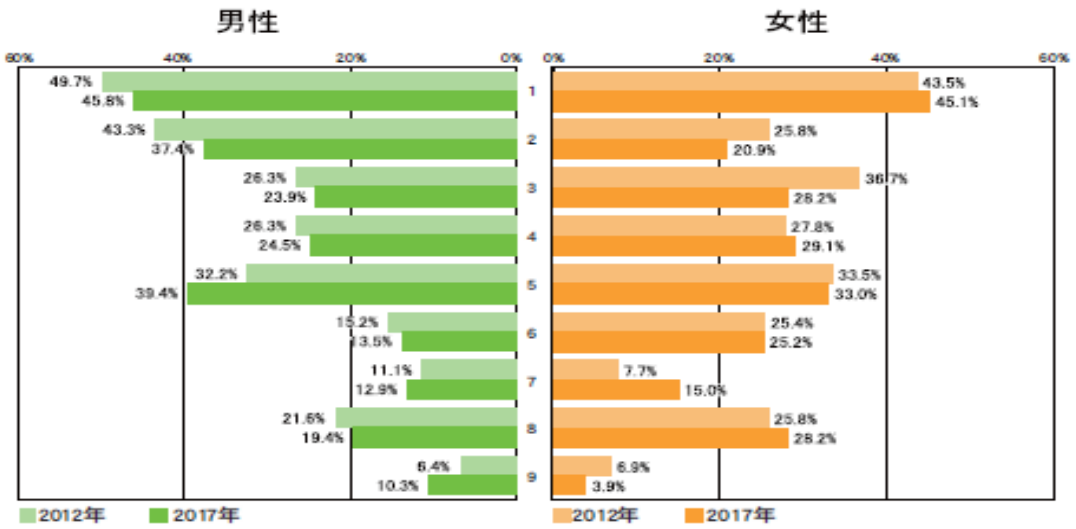
自営業の場合には、職種によっては自分自身で働く環境を整えることができるため、結婚や出産等のライフイベント時にも比較的柔軟に対応可能な点も「職業を持ち、結婚や出産後も仕事を続けるほうがよい」との回答が伸びた要因の１つといえるのかもしれない。裏方の事務処理的な部分を女性が担うようなことも多く、「出産のため退職」というよりも、体調等と相談をしながら可能な限り「職業を持ち、結婚や出産後も仕事を続けるほうがよい」と考える男女が多いのではないか。

○具体的目標３　男女の働きやすい職場環境づくり

・計画 52 ページと結果　(問 29)問 30

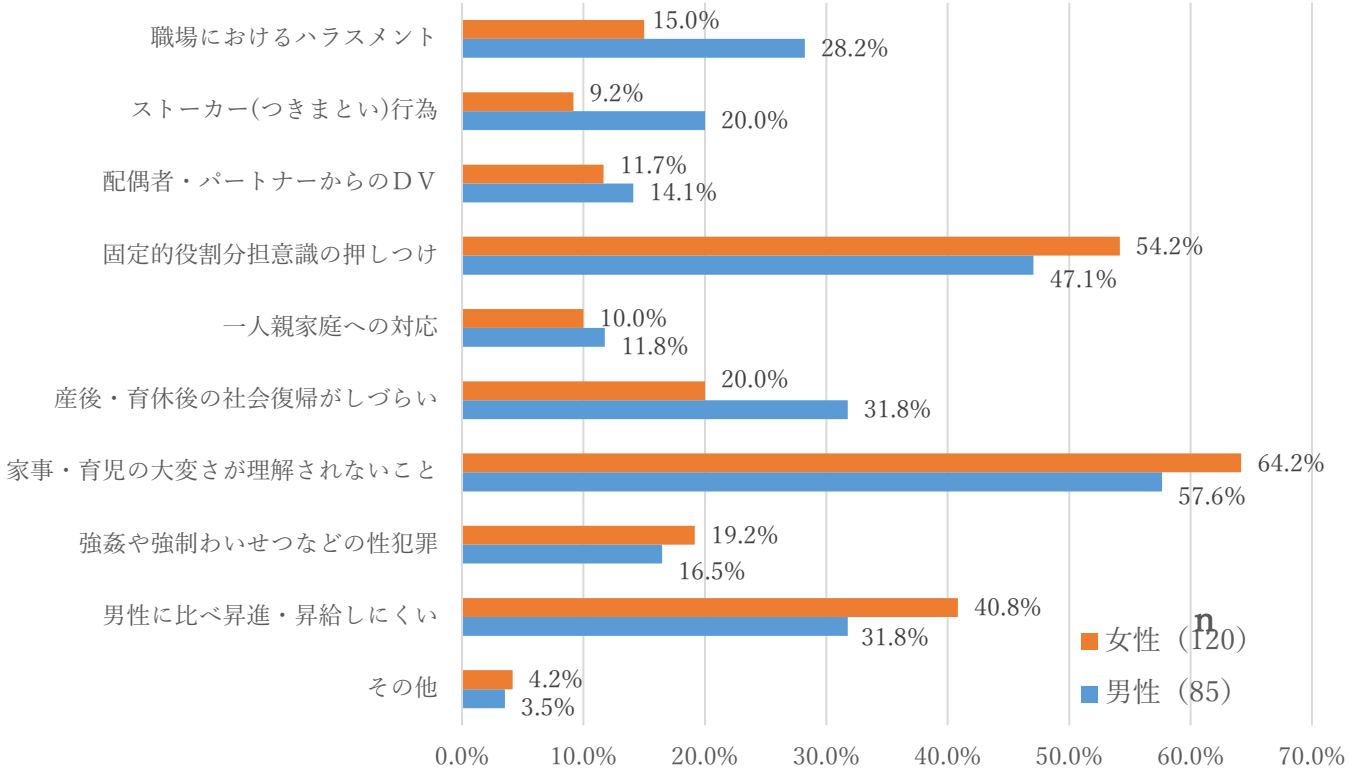
女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことですか？

(全く同じ項目がないため、類似の項目との比較で考察)



1. 結婚・戸籍など民法上の制度や慣習からくる差別
2. 女性であることを理由とした、伝統行事などへの参加制限
3. 売春・買春や女性の働く風俗営業
4. 夫・恋人からの身体的・精神的な暴力
5. 職場におけるセクシャル・ハラスメント
6. 女性のヌード写真などを掲載した雑誌や広告
7. 女性の容貌を競うミス・コンテスト
8. 女性だけに用いられる言葉（未亡人・後家・奥様・○○女史など）
9. その他

「中川村男女共同参画計画　ともに歩む21　パート４」策定時アンケート調査　平成29年９月



○その他：・職場の管理職には女性がいない。・容姿のことを気安く話題にする。

・中川村の各地区の決まりなど、ある高齢の男性に女は言うことを聞けと言われたことがある。

・給料、手当が低い。離別後、実家へ戻ると児童扶養手当が止まる。家族からお金の支援はされていない。子どもの親の所得で判断してもらいたい。

考察４

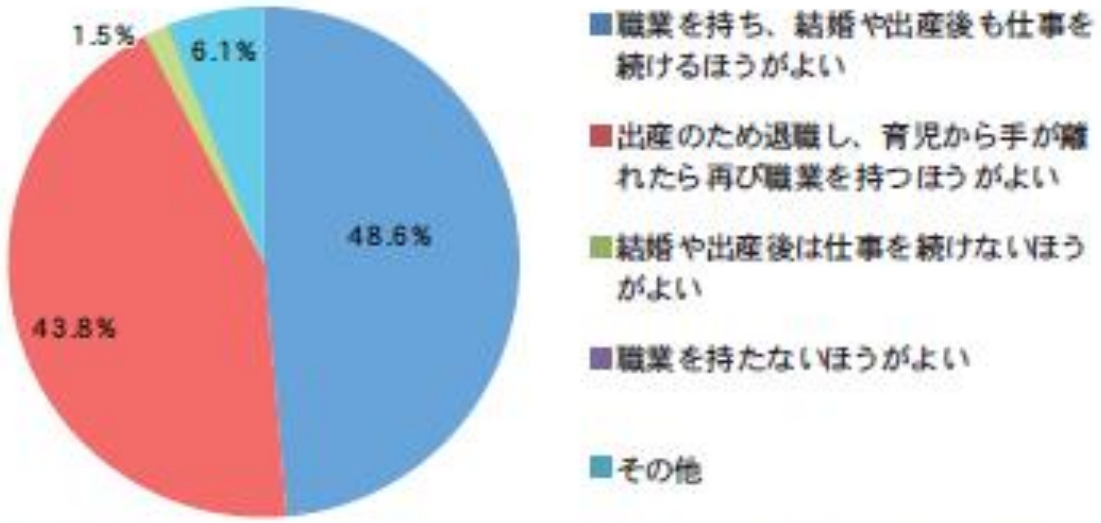
・「夫・恋人からの身体的・精神的な暴力(配偶者・パートナーからのDV)」と「職場におけるハラスメント」の項目が今回の結果では減少している。「夫・恋人からの身体的・精神的な暴力(配偶者・パートナーからのDV)」では、男性は10.4%減、女性は17.4%減となっている。DV等よりも夫・恋人(配偶者・パートナー)から家事や育児の大変さの理解が得られないことや、固定的役割分担意識の押しつけに対して違和感を覚える男女が増え、回答が流れていったのではないだろうか。

・「職場におけるハラスメント」については、特に女性の回答が18%減と男性に比べて大幅に減少している。昨今の女性活躍推進や相談窓口の充実等のハラスメント防止対策によって、職場における環境整備が進んできていると感じる女性が増えているといえるのではないか。

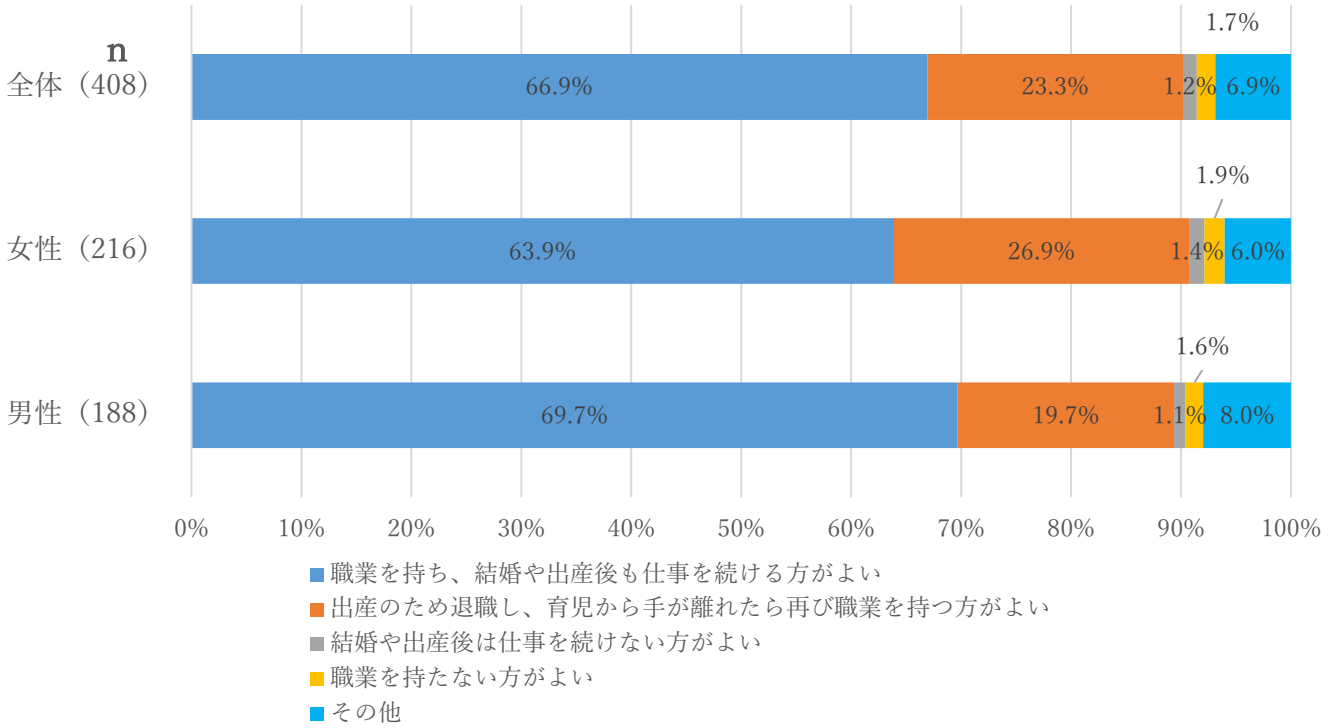
・計画 53 ページと結果　問 18

会社員等の職業を女性が持ち続けることについての考えは？

（計画では全体の回答のみの記載のため、男女別での考察はなし）



「中川村男女共同参画計画　ともに歩む21　パート4」策定時アンケート調査　平成29年９月



〇その他：・個人の判断で決められるのが良い。・個人の自由だが実際は仕事を続けざるを得ない人が多い。

考察５

・計画と今回のアンケート結果を比べると、「職業を持ち、結婚や出産後も仕事を続けるほうがよい」の回答率が 18.3%増加している。その分「出産のため退職し、育児から手が離れたら再び職業を持つほうがよい」の回答率が 20.5%減少した。共働きの家庭が多いなか、職業を持ち続けなければ収入面での安定を維持できないことや一度出産や子育て等を理由に退職をしてしまうと再度仕事に就くためのハードルが上がるなどの今日の時代背景に大きく影響を受けていると考えられる。また、職場での産休育休制度が整ってきたことによって、「職業を持ち、結婚や出産後も仕事を続けられる環境」が身近にでき、そういった働き方を望む男女が増加しているのではないか。

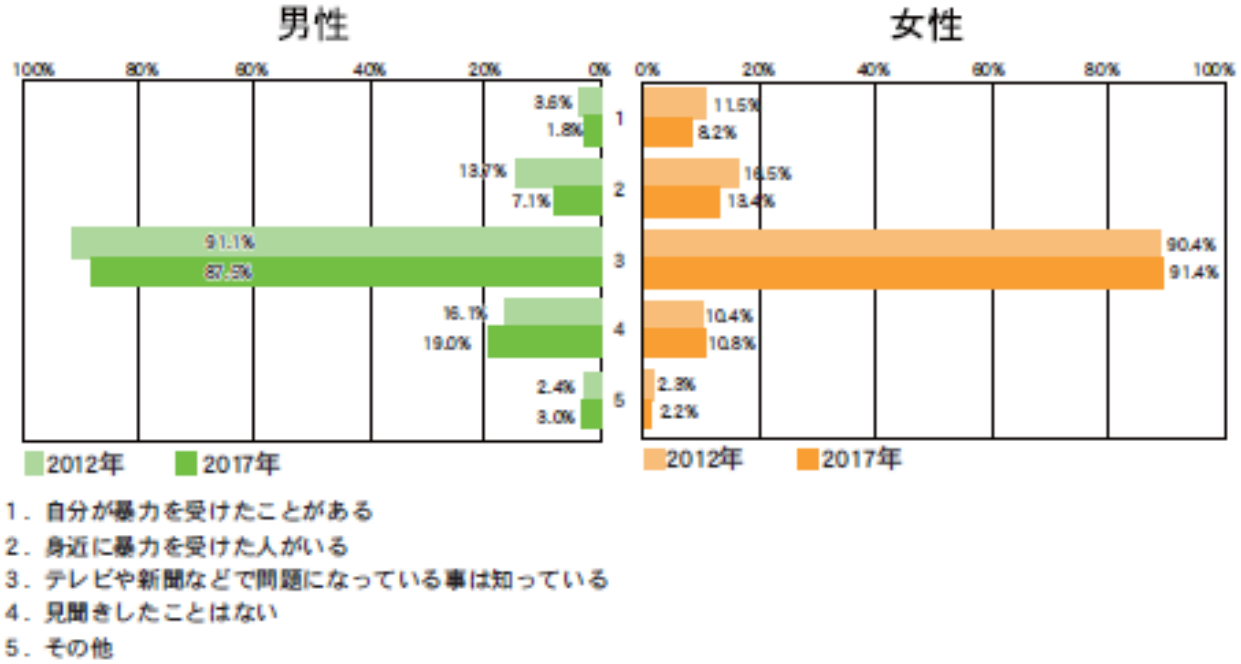
・計画 49 ページと結果 問 19 農業や自営業の職業を女性が持ち続けることについての考えは？との回答の違いに、農業や自営業の職業が対象の方が「職業を持ち、結婚や出産後も仕事を続けるほうがよい」の回答が多く、「出産のため退職し、育児から手が離れたら再び職業を持つほうがよい」の回答が少ないという違いがあった。農業や自営業の職業と会社員等の職業の違いで回答の差が出たことについて、会社員等の職業の方は育児休業等の制度がありつつも自由度が少ないという点で「出産のために退職し、育児から手が離れたら再び職業を持つほうがよい」の回答が 7.1%上回ったのではないか。

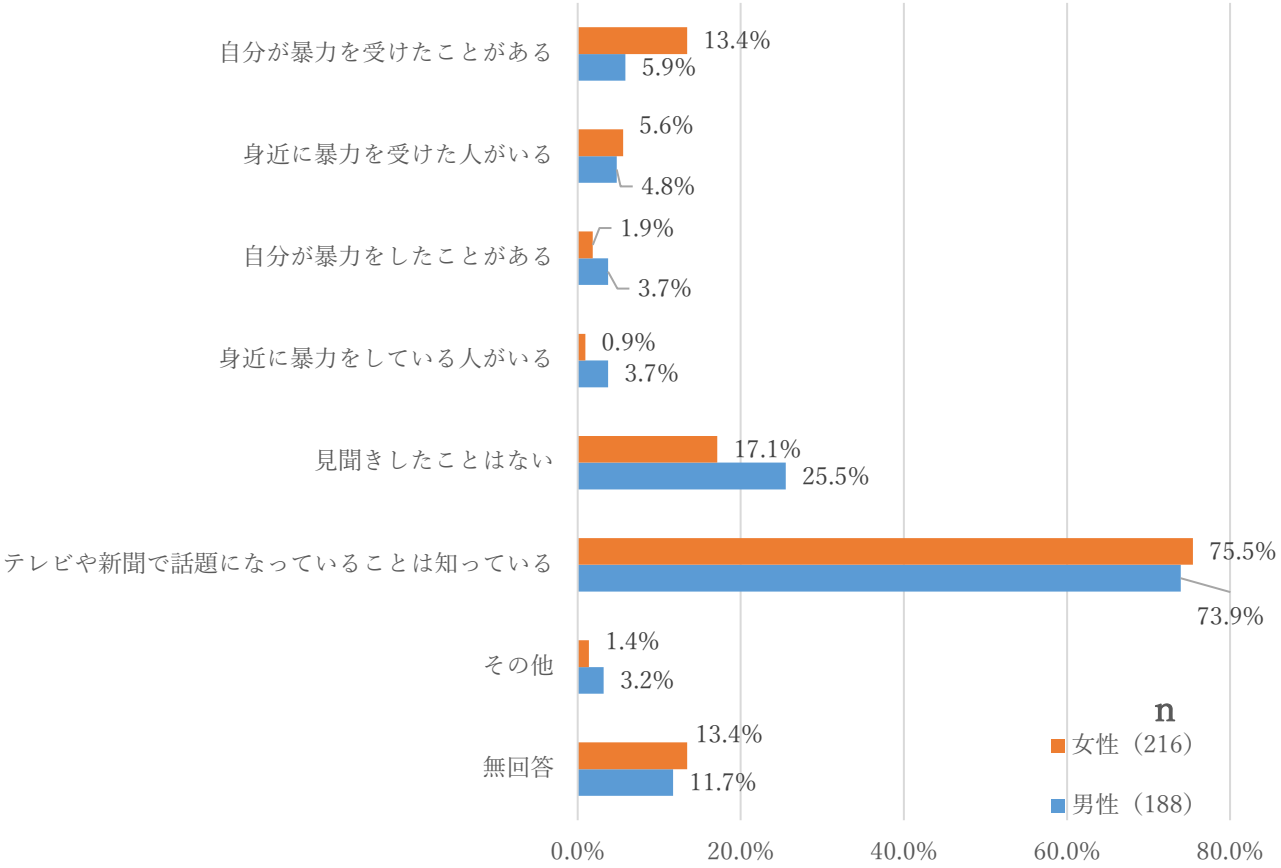
重点目標④皆が健やかに暮らせる地域づくり

○具体的目標１　男女間のあらゆる暴力の根絶

・計画 56 ページと結果　問 28

DV についてあなたにあてはまるものはありますか。





○その他：・言葉の暴力。・身近に暴力をしていた人がいた。

考察６

・計画と結果を比べて、「見聞きしたことはない」と回答した人が男性は 6.5%増、女性は 6.3%増となった。そして、「テレビや新聞で話題になっていることは知っている」との項目では、男性は 13.6%減、女性は 15.9%減となっている。この 2 つの結果から、DV についての話題を近頃は耳にする機会が少なくなっている傾向にあるのではないか。

・「自分が暴力を受けたことがある」の項目で、男性 4.1%、女性 5.2%増加していることは重大な問題である。あらゆる暴力の防止対策と被害を受けた人に対する支援策が課題であり、DV 等から関心が薄くなることのないよう意識啓発などに取り組んでいきたい。